

会報 茶の間

第151号

12月1日現在会員数

男性 1,409名

女性 593名

計 2,002名

◆発行(公社)長野シルバー人材センター 〒380-0814 長野市大字鶴賀西鶴賀町1481-1

◇電話026-237-8315 ◇FAX026-237-8317



会員互助会マレットゴルフ大会



植木班全体講習



シルバー奉仕デイ



障子・襖張班テレビ取材



NEXCO 東日本横断幕再利用バッグ制作の表彰式



長野駅東口公園管理作業



子ども見守りボランティア

令和7年大変お世話になりました。
令和8年もよろしくお願いいたします。

監事
事務局

理事長
副理事長
専務理事
理事 総務部会長
理事 事業部会長
理事

皆様のご健康を心より
お祈り申し上げます。



小 藤 福 小
林 澤 成 隆
一 正 恵 貞 や 利 圭 愛 三 む 正 文 一 範 成 隆
同 幸 子 行 い 光 子 均 郎 夫 義 子 彦 之 則 之

新年あいさつ

長野シルバー人材センター理事長

小林 隆之



新年あけましておめでとうございます。

会員の皆さま、そして日

頃より当センターの活動

にご理解とご協力を賜っております市民の皆さま、関係機関、事業所の皆さまに、心から感謝申し上げます。

振り返りますと、昨年は災害級とも言われた猛暑や物価上昇など、社会全体が大きな変化に直面した一年でした。人手不足が深刻化する中で、地域を支える「働く力」として、シルバー人材センターの存在意義が一層高まった年でもあったと感じております。

そのような中、会員の皆さまが公園や道路の清掃、公共施設の維持管理、除草や農作業、除雪など、さまざまな現場で活躍されました。四季折々の自然に恵まれた長野のまちが、皆さまの手によって美しく、そして安全に保たれていることに、改めて深く感謝申し上げます。

迎える令和8年は、60年に一度巡ってくる丙午（ひのえうま）年です。強さやエネルギーを象徴するポジティブな年といわれ

ています。

当センターにおきましては、「安全で安心な就業」「多様な働き方の創出」「地域とともに歩む組織づくり」を柱に、エネルギー

シユにさらなる発展を目指してまいります。特に、デジタル技術を活用した情報発信やマッチングの強化、そして女性や新入会

員が参加しやすい環境整備を進めてまいります。

また、最も大切なのは、会員一人ひとりの「安全」と「健康」です。

「安全はすべてに優先する」「安全無くして就業なし」を合言葉に、今年も安全就業講習や現場巡回を充実させ、安心して働ける体制づくりに努めます。

「無理なく・楽しく・社会の役に立つ」活動こそが、長く続く秘訣であり、シルバー人材センターの原点です。

本年も、皆さまの経験と知恵と力を結集し、地域に笑顔と元気を届けられるよう職員一同力を合わせてまいります。

結びに、皆さまのご健勝とご多幸を心から祈り申し上げ、新年のごあいさついたします。

理事会報告

定例議題・報告事項

- ① 新入会員の承認
- ② 各部会等活動報告
- ③ 契約状況
- ④ 事故報告
- ⑤ 苦情等報告

議案

第4回（6月25日）

映像班（独自事業）の設置について

地域活動推進委員会委員の選任について

第5回（7月29日）

理事候補者選考委員会委員の選任について

市長・町長等への支援要請について

第6回（9月24日）

令和8年度配分金単価の設定について

育児・介護休業規程の一部改正について

第7回（10月30日）

顧問の選任について

第8回（11月26日）

顧問の選任について

新たな契約方式（包括契約）への移行について





長野市長 荻原 健司
明けましておめでとう
ございます。

長野シルバー人材セン
ターの皆様には、健やかに新年をお迎えの
こととお喜び申し上げます。

昨年は、長期化する物価高騰や米不足に
よる米価格の高騰と備蓄米の放出、さらに



信濃町長 鈴木 文雄
新年、明けましておめで
とうございます。

会員各位をはじめ、関係
の皆様におかれましては、お健やかに新春
をお迎えのこととお喜び申し上げます。昨
年は、地域社会の様々な場面でご尽力いた
だき、心より感謝申し上げます。皆様の熟



飯綱町長 土屋 龍彦
皆様には、健やかに新春
を迎えられたことと心よ
りお慶び申し上げます。昨

年1年間、飯綱町の発展と住民生活の向上
にご尽力をいただきましたことに、深く感
謝申し上げます。特にシルバー人材セン
ターの皆様には、農作業支援や地域イベン

は全国各地でクマの出没が相次ぎ、被害が
発生するなど、市民の皆様の暮らしや企業
活動に影響を与えた一年でした。

このような中、本市の商工業、雇用を取
り巻く環境も大きく変化しており、DX推
進による生産力向上や省力化など、持続可
能な経済基盤の強化につながる各種施策に
取り組んでおります。

練された技術や豊かな経験が、まちづくり
における大きな力となり、そのおかげで町
全体が活気づきました。お一人お一人の努
力が、私達の未来を支える大きな礎となっ
ております。

本年も、皆様の活動がより一層発展し、
町の誰もが安心して暮らせる、暖かい地域
を共に築き上げていきたいと考えておりま

す。環境整備など幅広い活動を通じ、町づ
くりには大きな貢献をいただきました。その
豊かな経験と知恵が町を力強く支え、住民
の皆様に必要な安心をもたらしています。

今年も引き続き、皆様のご協力を賜りな
がら、より良い町づくりに邁進してまいり
ます。少子高齢化が進む中で、シルバー人
材センターの皆様が担う役割はますます重

本年も、誰もがキラキラと輝く、明るく
未来ある長野市、選ばれる・世界に誇れる
まちとなるよう、市政を前進させてまいり
ますので、引き続き御支援を賜りますよう
お願い申し上げます。

結びに、今年一年の皆様の御多幸と御健
康を心から祈念申し上げ、新年のごあいさ
ついたします。

す。行政としても、皆様の活動をしっかりと
支え、万全のサポート体制を整えてまい
ります。今年も共に協力し、よりよいまち
づくりを進めてまいりましょう。

最後になりますが、皆様のご健康とご多
幸を心よりお祈り申し上げ、新年の挨拶と
させていただきます。

要となります。町としても、皆様が活動し
やすい環境づくりに努め、支援を惜しまな
い所存です。

結びに、長野シルバー人材センターのさらな
るご発展と、会員の皆様方のご活躍を心よ
りお祈り申し上げ、謹んで年頭のご挨拶と
させていただきます。

上高地への旅

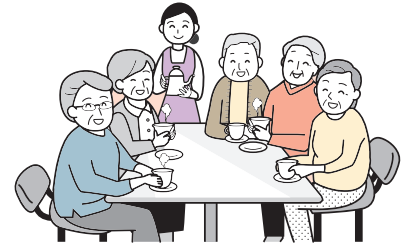
就労のあい間を利用して友人と上高地への散策を楽しむこととした。松本より電車で新島々に移動した。車窓からは、秋の田の実りの黄金色に色づいた稲穂が風に揺れ秋の深まりを感じた。

上高地までは、バスを利用することとした。道路は整備されていて、快適に移動することができた。河童橋からながめる穂高連峰は、神々しくも勇壮で凛々しく峰々が陽をあげていた。梓川の流れは、どこまでも清く手をひたすと冷たく痛い程であった。昼食は持参したおむすびを食べることとした。ベンチに腰をかけ、澄んだ空気に疲れがいやされ温かいお茶とともに何ともしがすがしい食事であった。

槍ヶ穂高連峰は日本の名峰でかつ北アルプスの象徴でもある。槍ヶ岳、前穂高岳、北穂高岳、奥穂高岳、西穂高岳と岩山の三千メートル級の尾根が続く。イギリス人



～エンジョイライフ～



匿名



雉の卵

で宣教師のウエストンは、明治二十五年に槍ヶ岳に登頂した。開山祭にはウエストン祭としてアルピニストのみならず日本各地からこの上高地にやってくる。私と友人はかつて槍ヶ岳に登った。燕岳からアルプス銀座を経て、東鎌尾根から槍ヶ岳を目指したのである。その穂先に立った感動は忘れがたいものがある。昼食後は、梓川の上流を散策し明神池まで歩を進めた。木々の葉が色づき始め、だんだんと冬を迎える時間の流れを楽しんだ。

また、いつか友人と二人で心ときめかす、感動を求めて山行をしたい。

浅川班 田畑 健次



実家のある山の畑を僅かばかり耕して、ねぎを植えている。暫らく手入れをしないから、ねぎと草の見分けがつかない程に荒れている。6月の下旬に、3時間くらいかけて、草取りをした。お蔭で現状の写真のようになっているが、その草取りの最中に、足元から、一羽の雉が跳び出して、羽ばたいて飛んで行った。「あ、これは足元に巣があり、卵もあるな!」と思って、いくら探しても見つからない。然し気になっていたので、先日、又探したら、どうして



の場合は、周囲を広く、草を刈り残している。すると、親鳥が戻って来て、更に卵を産みまして、聞いた話では、雉は12個、やまどりは16個産卵するという。

今回は、一個だったので、産卵が始まったばかりだったので、巣といっても土を砂浴びのように地面を掘って窪ませ、そこに僅かに枯れ草などを敷いたものだ。そして、メスはじっと卵を温めている。人間が相当に不注意で、近寄らないと跳び出すことはしない。気が付いていても、身に危険が及ぶ寸前まで、離れない。春先になると、オス鳥が、あちこちで、「ケーン、ケーン」と関の声を上げ、その後、ブルブルっと羽を震わせる。そして、近くには雌鳥が何羽か餌を探し回っている姿を、最



野原の所々にスコップで土を掘り返しておいてあげます。すると後日、砂浴びにきた形跡が確認でき、しかも継続して使われています。雉を見かけたら、日本の国鳥の生活を思い起こしてみませんか。



関の声



近くには数羽のメスが餌を啄んでいる。近頃は近くの野辺でもよく見られるようになった。写真は、無いが、雉がかえると親鳥は、雷鳥のように未だ、跳べない雉を連れて、餌探しに明け暮れる。「コウ、コウ」と声をかけて誘導する。雉は飛べないけど足は早い。一寸捕まえて、頭を撫でてやろうと思っても、蜘蛛の子を散らすように、必ず四方、八方に分散して逃げる。親鳥も逃げる。しかし程なくして、親鳥が「コウ、コウ」と鳴きながら戻って来て、雉を集めて、また餌探しに。8月下旬ころになると雉はもう飛べるようになる。山の畑を歩いていて、何羽の若鳥が次々に、驚いて飛び立つ姿を目にする時、「ああ、ここまで、無事に生き延びたんだな!」と安堵する。雉は、人間の生活と密着して生活している。一つは、耕作地や草刈り跡等で打ち開けた地肌は、餌探しの恰好の場。また耕地で砂浴びをして、体の寄生虫を退治する必要があるのでと思ひます。だから、

愛の鐘

機械刈り班 坂口 教道



ルルルーン。呼び出し音が鳴る。「はい」「シルバー人材センター〇〇です。愛の鐘の除草依頼が来しました」「仕様書を送って下さい」「分かりました」愛の鐘だつて、誰がつけたんだらう。メルヘンチックな名称の正体は象山の頂上にある防災用放送設備だ。集落のある方向に向けられたスピーカーが6基鉄塔に取り付けてある。山麓から頂上まで約200m、ケーブルが張ってある。草を刈るというよりは、幅10mで配線に接触する、支障となる竹や雑木を伐採する仕事である。

誰も引き受けなかった案件に前班長が手を挙げた。大岡支所の急斜面といい、クズに覆われ、ヌルデが林立する武家屋敷跡といい、何でもありだ。日替わりで変わる現場、ビバーを持って何処へでも行く。一度はまったらやめられない、機械刈りは。

「11月4日から入ります、いつもの6人で。今年最後の仕事だよ」「ありがとうございます。お疲れ様です。熊に気を付けて下さい」

真ん中に行き止まりの道路がある。下は竹林、上は雑多な低木が生えて



いる。梯子を使って登る。かなりキツイ作業だ。刈り払い機を持って、35度の斜面をよじ登る。膝の上でビバーを操作する。スリリングな仕事だ。刈るのは2人、残りで伐採した竹木等を両端に寄せる。1日目は下から4番目の電柱まで、翌日5番目から頂上まで。だからやらずに、一気に仕上げる。無人の野山で無心に雑草を刈っている



と、何で俺はこんなことをしているんだろうと、酷く寂寥感に苛まされる。作業の辛さやキツさ、それに、ちよつとした発見や終了後の満足感などを話す。静かに聞いてもらえる。

ようやく仕事が終わった。頂上から松代の町並みが一望できる。10万石の城下町だ。この景色を見るために今年も頑張ったんだ。職員に電話する。「愛の鐘鳴らしたんだけど聞こえた?」「うん、聞こえたよ。聞こえた、聞こえた」間を置かず、すぐに明るい反応が返ってきた。へー、世の中そんなこともあるんだ。こりゃあ春から縁起がいいぞ!

「付記」令和5年を最後にこの草刈りはなくなつた。今は誰が鐘を鳴らしているんだろう。

今後の予定

- 1月5日(月) 仕事始め
 1月23日(金) ダレデモダンス
 1月30日(金) 会員互助会新年会
 2月18日(水) 作品展



センターからのお知らせ

「令和7年 シルバーポイントカード」
の提出について

対象期間

令和7年1月1日～令和7年12月31日

提出期間

令和8年1月6日～1月15日(必着)

※詳細は令和7年度版「会員のしおり」P16～17をご覧ください。

センターからの郵便発送の終了について

「配分金明細」および「センターだより」、「就業情報案内」の郵便発送は終了しました。また、地域班通知は令和8年4月1日以降郵便発送を終了します。

この機会に「Smile to Smile」の登録をお願いします。

登録が不安な方はパソコン班によるサポートをご利用ください。



人事異動

退職

令和7年9月5日付

総務課職員

採用

令和7年12月1日付

総務課職員

相澤 順子

小川 澄



小川 澄

おくやみ

謹んでご冥福をお祈りいたします

酒井昭夫様	7月15日	柳原・長沼班
佐藤政雄様	9月3日	第2班
荻原 洋様	10月7日	芹田西班
前坂政勝様	10月14日	第2班
石坂丈男様	12月11日	川中島班

◆◆◆ 編集後記 ◆◆◆

会員の皆様、新たな年を迎え、「午年」に
 相應しい飛躍のスタートとなったこととご
 推察申し上げます。

地域班の班長・副班長の皆様中心となって
 会員相互の連携共助による地域の人手不足
 など地域課題解決への支えとなり、社会に貢
 献されていることは素晴らしいことです。

Smile to Smile に対しての「紙ベース」の
 要望が多い現状ですが、時代の要請でもあ
 り、「慣れ」に努力し、家族や事務局のご協
 力を得ながら頑張って「早い情報」を手にし
 ましょう。

何方かが言いました。「今しないで何時で
 きる・俺しないで誰がする」と。

新たな年を笑顔と元気で頑張ります。

記 総務部会 寺嶋 利光